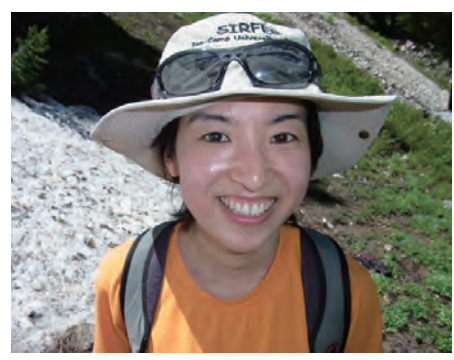


研究者紹介 **私の研究**

地学研究部 生命進化史研究グループ

木村 由莉 研究員



「恐竜の夢を見て、ネズミを発見?!」

90年以上前、アメリカ自然史博物館は中央アジア探検隊を組織し、大掛かりな化石発掘調査をゴビ砂漠とその周辺で行いました。恐竜の卵の化石を発見したことで世界的な注目を集め、この探検隊を率いた古脊椎動物学者のオズボーン博士と探検家のアンドリュースの物語は、今でも世界中の化石ハンターや恐竜ファンを魅了し続けています。私もその一人です。ただし、恐竜学者になることを夢見ながら、アンドリュースも眺めたであろう内モンゴルの大草原で発見したのは、ルーペでやっと見られるほどのとても小さな「生きている化石」でした。

いと断定されました。そして、全ての現生種・化石種と比較した結果、非常に原始的な新種であるとわかり、2011年に *Sicista primus* と名付けました。その発見まで、オナガネズミの最古の化石は約800万年前の堆積物から見つかったものとされており、*Sicista primus*のおかげで *Sicista* 属の生存期間が倍以上に伸びたこととなります。齧歯類は哺乳類全体の半分近くを占めますが、1700年以上から生息していた属はオナガネズミで8例目というほどまれです。そして、真のネズミのグループである「ネズミ下目」の中だけで比べると、ダントツで長命です。恐竜転じて鼠となる。小型哺乳類化石もなかなか面白いのです。

この化石は、オナガネズミ (*Sicista*属) という現在も生息するグループの化石種で、約1700万年前の地層から見つかりました。オナガネズミはヤマネのような姿で、後ろ肢がやや長いという特徴を持ちます。化石はバラバラになった歯で、頭骨や体の骨は発見されませんでした。歯に見られる特徴的な形態からオナガネズミの一種で間違いな



Sicista primus の歯

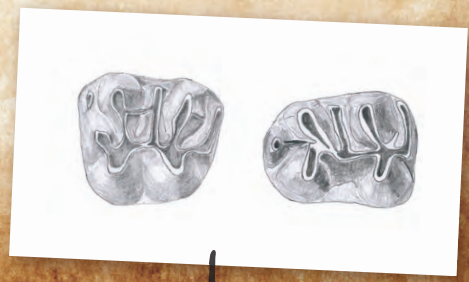


私の原点

©たかしよいち・吉川豊 (1989) 「きょうりゅうのたまごをさがせ」理論社



中国の朋友チーガオ君が描いてくれた *Sicista primus*



スケッチに挑戦

研究者に聞いてみました!

- 1) 専門は何ですか
古脊椎動物学です。小型哺乳類化石の中でも齧歯類が専門ですが、ウサギとコウモリも勉強中です。少しずつ守備範囲を広げられたら良いと思っています。
- 2) これから取り組んでみたい研究は
いつか恐竜時代の哺乳類も研究してみたいです。

- 3) 研究者になるために一番大事だと思うことは何ですか
時には、他の研究者から、自分の仮説や導いた結論を反対されることもあります。だから、簡単には折れない心、自分を信じる心が大事です。そして、自身にそう思わせるくらいたくさんのデータと証拠を集めることが一番大事だと思っています。
- 4) 今の職業に就いていなければ何をしていますか
7歳の時に連れて行ってもらった大恐竜博

で化石に興味を持ちました。その後、小学生高学年で読んだ「きょうりゅうのたまごをさがせ」がきっかけで、科博で恐竜を研究するという具体的な夢ができました。科博の研究者になり、少し違う形で、20年来の夢が叶いましたが、それまでにたくさんの分岐点に立ちました。今の職業に就いていなかったとしても、その時々過去の自分に「よくがんばりましたね」と伝えたいです。だから、タイムマシン開発者になりたいです。